

農 大 情 報

平成24年 2 月号

集発行：愛知県立農業大学校

本校学生が学生懸賞作文で日本一に

ヤンマー(株)が実施した「第 22 回ヤンマー学生懸賞論文・作文」の作文の部で、本校教育部農学科酪農専攻 1 年生の坂田客胡(さかたはつこ)さんの「牛への思い」が、全国から応募された 518 編の中からみごと 1 位の金賞に選ばれました。また、上位 28 名に贈られる奨励賞に研究科 1 年生酒井美穂さんの「過去(きのう)の自分と現在(いま)の自分」、農学科 1 年生山田倫之さんの「生産者と消費者が結びつく事によりもたらされる新たな花き産業への思い」の 2 人が選ばれました。

金賞の坂田さんは非農家出身ですが、半田農業高校で牛と初めて出会い、その時に感じた純粋な思いを胸に本校へ入学しました。最後は人間のために殺されてしまう「産業動物」としての牛の生と死を目の前にして、「食」が提供される前提としての「農」を一般の人にもっと知って欲しいと訴え、それができる酪農に関わっていきたくて将来の夢を述べています。(柳澤淳二)



写真：東京での表彰式 中央が金賞受賞者

海外派遣研修を実施

1 月 28 日から 2 月 4 日までの日程で、農学科 2 年生 85 名全員が参加して本年度の海外派遣研修を実施しました。研修はオーストラリアでのファームステイ(農家体験)を中心に農業関連施設の視察を行いました。

ファームステイは、ブルーマウンテン周辺の農家に 2 泊 3 日の日程で分宿しました。オーストラリアの広大な農園やホストファミリーとの生活など新鮮な体験ができました。

滞在したニューサウスウェールズ州は、雨天続きの冷夏とのことで、地域によっては記録的な豪雨にも見舞われていました。このため有機放牧養豚を営む農家や和牛牧場などの視察では、雨天で最悪のコンディションでした。しかし、対応していただいた農家は非常に親切で、学生の質疑も活発であったため時間が足りないほどでした。この他、シドニーのフレミントン卸売市場、園芸課程を持つ職業訓練学校 TAFE やワイナリー等の視察を行い、大変実りの多い研修を終えることができました。(山田勝)



写真：中央が視察した養豚農家 Simmons 氏

雇用創出農業研修発表会を開催



1 月 31 日、雇用創出農業研修の受講者 27 名が、今後の就農への想いや経営方針について、研修の成果を発表しました。

20 歳代から 60 過ぎまでの男女 27 名の研修生は、5 月の開講から鍬を持ち、露地ナス、キュウリ、トマト等の植え付け、整枝せん定、収穫作業等により技術の習得に努めてきました。夏の日照りと猛暑や、二度来襲した台風への対策など、農業が自然を相手に対応が必要な産業であることを身をもって体験しました。また、農作業を進めながら、多様な講義により農業経営に必要な基礎的な知識を習得してきました。

研修生の今後は、自ら所有する農地で露地野菜や果樹を主体に栽培し、農業を始める方、新規参入者として農地を確保し、これから経営を始める方、さらに技術を磨くために研修を続ける方などさまざまですが、農地や販路の確保など課題となっています。

この雇用創出農業研修は、岡崎高等技術専門校が行う職業訓練で、農業経営の開始、もしくは農業法人等への就職を目指しています。訓練自体は農業大学校で実施する研修ですが、申込みは愛知県内の公共職業安定所を通じて行います。(石代正義)

ニューファーマーズ研修が閉講

2 月 20 日、平成 23 年度のニューファーマーズ研修受講生 15 名に修了証が授与されました。閉講式に先立ち、10 か月にわたる研修の締めくくりの発表会が行われ、修了者それぞれが研修の成果と今後の就農計画について発表しました。

多彩な職業経験やキャリアを積んだ受講生は、新しい発想や視点で営農を考えています。前向きな営農計画を見ると地域農業に新しい風を吹き込む熱意と意気込みが感じられました。また、既に直売部会の役員を任されたり、機械作業の請負を依頼された受講者もあり、今後の地域農業の担い手やリーダーとなる人材として期待されている様子がうかがわれました。

ニューファーマーズ研修は、新規に就農を目指す農家出身者や非農家の新規農業参入者を対象として営農の基礎的知識・技術習得のために実施する研修です。

受講生は就農が決まっていることから、研修終了後は農業改良普及課の支援・指導を受けることとなります。このため、農業改良普及課が研修生の募集や応募窓口となり、また研修の実施においても農大と連携しています。(石代正義)



今後の主な行事：卒業式 3 月 6 日(火)